

三 左京三条二坊十二坪（三条大路北側溝）

（1） □得麻呂年廿九 藤原家

（153）×（8）×6 081

〔阿波カ〕
〔□□国板野郡少嶋郷白米五斗〕

202×16×3 011

(1)は上下両端が折れ、左右両辺は割れている。裏面上端の斜めの切斷痕跡は二次的なものである。表面には人名と年齢が記されており、考課木簡の一部であろうか。下端には「藤原家」とあるので、藤原某家に仕えた資人などに関するものかもしれない。調査地の南西には藤原仲麻呂邸「田村第」推定地が存在するが、それに関わる木簡であろうか。裏面の最初の部分は「八年」とも読めそうであるが、その下に日数などの記載は続かないようであり、文字の一部分しか残らないために釈読できない。

(2)は短冊型に近い形状をした白米の荷札で、上端左側と下端右隅を欠く。「板野郡少嶋郷」は『和名抄』の阿波国板野郡小嶋郷に該当する。

9 関係文献

奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報 二〇〇五年度

（第一分冊）（二〇〇六年）

（一・二 1・7・9 宮長秀和、三 1・7・9
岡林孝作・安水周平、一・三 8 鶴見泰寿）

『平城京木簡二一一一条大路木簡一』

（奈良文化財研究所史料第七五冊）の刊行

平城京跡出土木簡の報告書の三冊目が刊行された。長屋王家木簡を対象とした『平城京木簡一』『同二』に対し、今回刊行の『同三』は二条大路木簡の最初の報告書となる。

一九八八・八九年に出土した二条大路木簡は、二条大路北側のSD五三〇〇（五七mを完掘）・五三一〇（東端五mのみ発掘）、南側のSD五一〇〇（一一〇mを完掘）の三条の溝状土坑の遺物である。今回はSD五三〇〇の西端六m分とSD五三一〇、及びこれらと平行する二条大路北側溝の木簡計一三二七点を収録する。

SD五三〇〇西端は、「中宮職移兵部省卿宅政所」の木簡をはじめ、藤原麻呂の家政機関と関わる内容のものが集中して見つかった部分で、それらは左京二条二坊五坪を藤原麻呂邸と推定する根拠ともなった。市販は左記の通り。

図版B4判一七五頁、カラー口絵一丁、本文A5判三八六頁
セット価 一七三〇〇円（税込み）

吉川弘文館、二〇〇六年一月刊行